2020年4月入学

大学院博士前期課程(修士)一般入試 問題

熱力学

注意事項

- 1. 解答始めの合図があるまで、中の頁を見てはいけません.
- 2. 問題用紙が2枚、解答用紙が3枚、草案用紙が1枚あります.
- 3. 解答始めの合図があったら、全ての用紙を見て枚数を確認して下さい。また、全ての解答用紙及び草案用紙に、受験番号を記入して下さい。
- 4. 解答は、それぞれの問題の解答用紙に記入して下さい、他の問題の解答記入しても採点の対象となりません。
- 5. 解答欄が足りないときは、同じ問題の解答用紙の裏に記入して下さい. 裏に解答を記入するときは、表の頁に裏に解答を記入していることを 明記して下さい.

岡山大学大学院自然科学研究科(工学系) 機械システム工学専攻(機械系)

熱 力 学

- 【1】以下のようなサイクルを考える、状態 1 から一定温度 T_L のもとで膨張して状態 2 となり、状態 2 から容積一定で加熱されて状態 3 となる、次に、状態 3 から一定温度 T_H のもとで圧縮されて状態 4 となる、状態 4 から容積一定で、冷却されて状態 1 となる、以下の問いに答えよ、ただし、作動流体は質量 m の理想気体であり、ガス定数を R、定容比熱を c_r とする、なお、状態 i における容積 V は添字 i を付けて V_i と表す、
 - (1) このサイクルは熱機関、冷凍機のどちらであるか答えよ.
 - (2) P-V (圧力-容積)線図および T-S (温度-エントロピー)線図を描け、また、図中に状態 1、2、3、4 を明記するとともに熱の出入りを示せ、
 - (3) 各状態変化において、この系に出入りする熱量を求めよ.
 - (4) 各状態変化におけるエントロピーの変化量を求めよ.
 - (5) このサイクルの成績係数を温度のみで表せ、ただし、状態4から状態1の過程で放出されるすべての熱を再生器によって蓄積し、状態2から状態3へ変化するときに再び利用することができるものとする.
 - (6) この作動流体が理想気体ではなく、定容比熱が $c_r = a + bT + cT^2$ (ただし、a, b および c は定数) で表される半理想気体の場合、各状態変化におけるエントロピーの変化量を求めよ、

熱力学

- 【2】圧力 2.0MPa における水の圧力基準飽和蒸気表,圧縮液・過熱蒸気表を表 1 , 2 に示す、これらを用いて、水 1 kg に対して(1)~(6)では値を、(7)では語句を示せ、
 - (1) 水が沸騰する温度
 - (2) 水がすべて蒸気に変わったときの容積
 - (3) 水をすべて蒸気に変えるために必要な熱量
 - (4) 乾き度 0.3 の湿り蒸気がもつ熱量
 - (5) 飽和水のもつ内部エネルギー
 - (6) 200℃の圧縮水を 240℃の過熱蒸気に変えるために必要な熱量
 - (7) 温度 215℃の蒸気の状態(飽和蒸気か,過熱蒸気か)

表1 水の圧力基準飽和蒸気表(抜粋)

			200		MO 1 1 7 11 7 14 22 4	(4)~ (1)/		
	圧力	飽和温度	比容積		比エンタルピー		比エントロピー	
	(MPa)	(℃)	(m^3/kg)		(kJ/kg)		· (kJ/(kg -K))	
Į			υ'×103	υ"	h'	h"	s'	s"
Í	2.0	212.37	1.17661	0.0995361	908.588	2797.2	2.44686	6.33665

表2 水の圧縮液・過熱蒸気表(抜粋)

圧力 2.0 MPa								
	IL/J Z.U WIFA							
温度 (°C)	比容積 υ	比エンタルピー h	比エントロピー s					
温及(じ)	(m³/kg)	(kJ/kg)	(kJ/(kg ⋅K))					
200	0.0011560	852.6	2.3300					
210	0.0011725	897.8	2.4245					
220	0.1021	2819.9	6.3829					
230	0.1053	2848.4	6.4403					
240	0.1084	2875.9	6.4943					